



病理形態学講座セミナー



日時：2013年4月16日(火) 18時00分～19時30分

会場：山口大学医学部 霜仁会館3階

[演題]

低容量ストレス反応

[演者]

京都大学大学院生命科学研究科 細胞周期学分野
教授 石川 冬木 先生

今日の生物がもつゲノムは、長い年月のあいだに起こった地球上の環境変化に生き残った生物種がもつものである。環境の変化は、時には生物にとって致命的な影響を与えるため、栄養の蓄積・再利用や創傷の治癒・修復能力の向上などにより、かつては致命的であった飢餓、紫外線や酸素による生体物質の損傷などを克服し生存し続ける能力を身につけたものと思われる。その一方で、野生生物は、常に致命的ではないものの、絶え間のない環境変化にさらされているが、そのような低容量ストレスに対してどのような反応を示すのかはほとんど明らかになっていない。これは、一般に用いられるモデル生物に低容量ストレスを与えても、観察しうる変化に乏しいことが、その主たる理由であると考えられる。私たちは、分裂酵母を用いた遺伝学的実験によって低容量ストレス反応に必要な遺伝子を同定したので、その結果をお話ししたい。そのような遺伝子は、常に環境の変化にさらされている腫瘍細胞の悪性化過程で重要な役割を果たしていることが期待される。

[石川冬木先生からの講演要旨です]